



環境リモートセンシング 研究センター

Center for Environmental Remote Sensing

Newsletter No.234

千葉大学環境リモートセンシング研究
センター ニュースレター 2025年5月
発行：環境リモートセンシング研究センター
(本号の編集担当：ヨサファット)
住所：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
Tel: 043-290-3832 / Fax: 043-290-2024
URL: <https://ceres.chiba-u.jp/>

大学院融合理工学府地球環境科学専攻リモートセンシングコース 令和7年度入試説明会

令和7年千葉大学大学院融合理工学府地球環境科学専攻リモートセンシングコースの入試説明会を、5月24日（土）に102 講義室と Zoom オンラインのハイブリッド形式で開催しました。対象は2025年10月入学もしくは 2026年4月入学を希望する志望者で、今年度は学内から14名、学外から6名、海外から40名、合計60名の参加者がありました。

説明会はヨサファットコース長の挨拶から始まり、楊学務委員から募集要項の内容に沿って入試に関する説明がありました。参加者の各研究室訪問の前には、教員が3分程度で各研究室の特色を説明しました。その後、参加者は興味のある研究室を訪問し、個別に教員から研究内容の詳しい説明を受けました。今年度は8月5日に博士前期課程、8月6日に博士後期課程の入試が実施される予定です。一人でも多くの熱意を持った学生が受験してくれることを期待しています。



(学務委員・楊偉)



チューリッヒ大学・リモートセンシンググループ訪問記

2025年5月6日(火)というゴールデンウィーク真っ只中、服部センター長、笹川特任助教、筆者（市井）の3名でスイスのチューリッヒ大学・リモートセンシンググループ(参考 URL: 1)に衛星などによる陸域生態系モニタリングに関しての視察と今後の共同研究を視野に打合せと施設見学を行った。

チューリッヒ大学は、Michael Schaepman 学長がリモートセンシング分野を専門とされる教授(参考 URL: 2)であること、さらに Space Hub(参考 URL: 3)といった航空・宇宙分野の実験施設を保有することなど、リモートセンシング分野に関わる教員・研究者が非常に多く在籍するところに大きな特徴がある。昨年10月、スイス大使館が日本で開催したイベント「スイス・日本経済フォーラム」(参考 URL: 4)において、Schaepman 学長が貴重講演をされ、その翌日、我々（服部センター長・筆者）をスイス大使館に招待いただき、今後の共同研究に向けての打合せを実施したのが今回の訪問のきっかけであった。

今回の訪問では、さまざまな方にお会いし、手厚い歓迎を受け、施設見学・共同研究の打合せも順調に進んだ。まずは、研究副学長である Elisabeth Stark 教授、地球システム科学分野長の Maria Santos 教授、リモートセンシング分光光学グループリーダーの Claudia Rösli 博士と落ち着いた雰囲気のレストランの昼食を頂いた(写真 1)。Maria Santos 教授はリモートセンシングによる生態学モニタ

リングの専門家であり、筆者が4月30日に研究発表を行った欧州地球科学連合(European Geosciences Union)においても、筆者が発表したセッションにおいて、招待講演をされていた。お互いの大学・所属に関する意見交換、生態系リモートセンシングに関する意見交換などを行った。



写真 1. 昼食の様子

右側前列より、Santos 教授、Stark 副学長、Röösli 博士
左側前列より、笹川特任助教、服部センター長、市井教授

その後、チューリッヒ大学・Irchel キャンパスに向かい、施設見学と詳細な研究打合せを行った。まず、研究施設の見学においては、リモートセンシングに関する「基盤センシング」部門が強力であると同時に非常に重視されていることが分かった。例えば、航空機搭載のハイパースペクトルカメラ AVIRIS-4 の実機(写真 2)については、NASA ジェット推進研究所との共同研究によりチューリッヒ大学で作り上げた(実機も見学しました)こと、実験室において、対象物の反射方向性を測定する実験施設を保有していることなど、リモートセンシングの基盤を非常に大切にされているという点で、我々のセンターにとっても非常に参考になりました。



写真 2. AVIRIS-4 実機

さらにその後は、同大学の Department of Evolutionary Biology and Environmental Studies の清水健太郎教授の研究室を訪問し、議論を行った。生物に関するミクロな分子レベルの研究を推進する研究室であり、さまざまな研究施設も見学させていただいた。ここでは、CEReS の修了生が留学中であり、その活躍をみることもできた(写真 3)。世界で活躍する CEReS 出身の方々を見ることは、我々にとっても喜ばしいです。



写真 3. CEReS 修了生との記念撮影
(佐野春香さん@現東京大学博士
後期課程)

今後は、チューリッヒ大学・リモートセンシンググループと本センターの間で生物多様性に関するリモートセンシング研究の共同研究を推進することで合意し、我々センターの新たな挑戦にも非常にワクワクするところです。

【参考 URL】

1. <https://www.geo.uzh.ch/en/units/rss.html>
2. <https://www.uzh.ch/en/explore/management/president.html>
3. <https://www.spacehub.uzh.ch/en.html>
4. <https://switzerland-japan-economic-forum.org/ja/>

(市井和仁)

令和7年度 CEReS 研究室メンバー顔合わせ会

5月14日（水）18時より、R7年度の CEReS 新入生・新人歓迎会・顔合わせ会を開催しました。今年度は昨年度と同様に、各研究室の有志学生（主に M1・B4 学生）による実行委員会が主体となって準備・企画を行い、工学部同窓会の松韻会館 2 階にて飲食ありの対面形式で実施しました。教員・研究員、非常勤職員、学生合わせて 59 名（教職員 15 名、学生 44 名）の参加者があり、学生実行委員が考案したレクリエーションを通して研究室を超えた交流ができたのではないかと思います。

センター内の親睦がさらに深まることで今後の活動の活性化に繋がればいいなと思います。

（学務委員・楊偉）



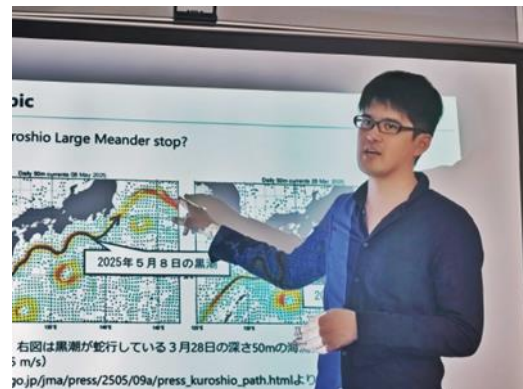
<今月の CEReS セミナー>

開催日：2025年5月19日

発表者：青野 憲史さん（特任研究員）

タイトル：黒潮続流の異常北偏に関連した冬季大気の応答

（ Wintertime atmospheric responses associated with northward Kuroshio Extension meandering）



当日のセミナーの様子